

祝

湯前町指定文化財「下町橋」
開通式



令和6年7月29日(月)午前10時

湯前町・湯前町教育委員会

あいさつ

この度、湯前町指定文化財「下町橋」が補修工事完了の運びとなりました。ここに御支援をいただきました国、熊本県そして、ご協力いただきました関係者の皆様に衷心より御礼申し上げます。

下町橋は、明治39年（1906）に地元有志で架橋されたものでありまして、築100年以上が経過し、老朽化が進んでいたところです。

そのような中、先人が築いた貴重な文化遺産を次世代へ繋げるべく補修計画を進めてまいりました。今回、国、県のご理解を得て、平成31年より専門家調査、補修設計、補修工事を進め、町道道路橋としての供用開始に辿り着けました。

下町橋は現役の道路橋として、また、地域を代表する貴重な文化財としても重要な役割を担っています。

今後も地域の宝、地域住民の郷土に対する誇りの源としてともに守っていくことをお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



湯前町長 長谷 和人

※式次第

受 付

午前9時30分

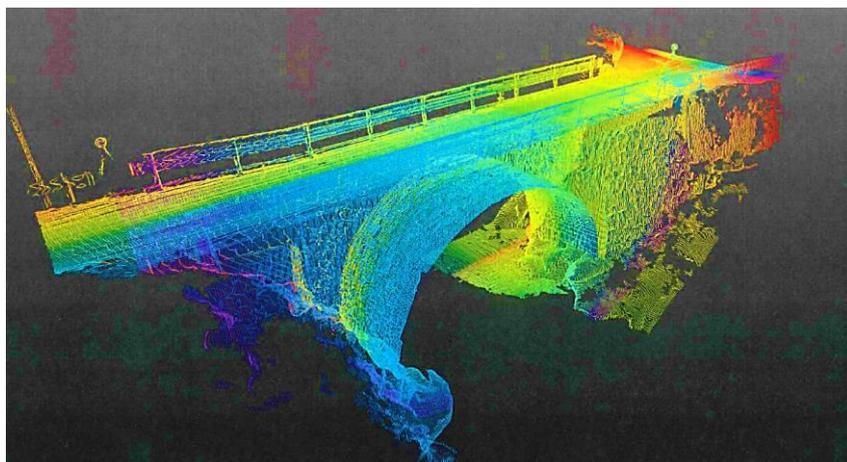
《第1部》

午前10時00分

神 事

《第2部》

1. 開 式
2. 町長式辞
3. 下町橋概要説明
4. 工事経過報告
5. 感謝状贈呈
6. 来賓祝辞
7. 来賓紹介
8. 祝電・祝辞披露
9. テープカット・渡り初め
10. 閉 式



※ 下町橋について

下町橋は、湯前町を流れる都川に架かる石造アーチ橋で、明治 39 年（1906）に完成しました。橋の名前は、兩岸の地名「下城」と「古町」から 1 文字ずつ取って名付けられたといわれています。また、権現淵に架かることから、別名「権現橋」とも呼ばれています。

明治 39 年に石橋ができる以前は、木橋または土橋が架かっていたようですが、8～10 年ごとに架け替える必要があったため、永久に橋を維持できるように、石橋を架けることになったようです。

当時の湯前村の議事録によれば、村から材木等の提供を受けながら、地元住民が主体となって下町橋を架けたことが分かります。材木があまりに良材であったため、材木を売却し、その代金で、石橋を架けることになったという話も伝わっています。

下町橋を担当した石工については不明ですが、種山石工の流れをくむ人たちが来たらしいといわれています。

湯前出身の風刺漫画家那須良輔も下町橋の近くで育ち、下町橋や都川で釣りをした思い出を絵や文章に書き残しています。

めがね橋

今思い出すと、私の少年のころはどここの川にも魚の群れがいっぱいだった。初夏のよく晴れた日など、権現湊のめがね橋の上から下を見ると、浅瀬にはイダ（うぐい）、アサジ（おいかわ）、ヤンモトゴロ（しまはや）、カマツカなどがぞろぞろと群れをなして、からだをきらり、きらりと光らせながら瀬を鼻づらで掘っていた。私は魚の遊ぶ姿を橋のですりに乗りかかるようにして飽かずながめていた。

那須良輔『絵本歳時記』より



那須良輔画「下町橋」（湯前まんが美術館所蔵）

【工事経過報告】

道路法の規定により5年に1回、橋梁点検をする必要があり、平成29年度より定期点検を実施してきました。

平成31年には、国土交通省・九州地方整備局・熊本大学・熊本県土木部・湯前町合同橋梁点検を実施し、専門家を交えた補修工法検討会を行い、令和2年度に補修設計業務委託を行っております。

その後、経年劣化や度重なる災害の影響により、令和3年度に2回目の橋梁点検を実施した結果、橋梁側面の石積み（名称：壁石）の孕み出しや抜け落ちが確認され、緊急措置を行う必要があると判定し、同年12月から全面通行止めを行い、令和4年度より補修工事に着手しました。

工事にあっては特殊な工事であり、なおかつ、出水期を避けて工事を行う必要があるため、工事施工者及び設計監理者と念入りに全体工程計画の検討を行い、手戻りが発生しないよう工事を進めてきました。

本工事では町指定文化財の補修であるため創建時の技法を用い、また、既存のガードレールを創建当時の石造高欄に復元しました。補修箇所には擬石修復を行い、違和感のない仕上げを施しており、文化財としての価値を損なわないよう補修工事を行いました。

【事業概要】

1 下町橋概要

橋 長 17.5m

幅 員 3.25m

架設年次 明治39年(1906年) 118年経過

構 造 単一アーチ橋

2 事業名 道路メンテナンス事業

3. 総事業費：141,490,934円(設計・監理・工事の合計)

1) 設計費 10,017,313円

【内 訳】

・国庫補助金(補助率65.45%) 5,523,000円

・町 債 4,400,000円

・一般財源 94,313円

2) 監理費 14,037,883円

【内 訳】

・町 債 13,000,000円

・一般財源 1,037,883円

3) 工 事 費 1 1 7, 4 3 5, 7 3 8 円

【内 訳】

・国庫補助金（補助率65.45%） 49,434,000円

・町 債 50,900,000円

・一般財源 17,101,738円

4 工事施工者

設計・監理者 株式会社 建設プロジェクトセンター

熊本市北区弓削4-18-1-802

工事施工者 株式会社 尾上建設

熊本県上益城郡山都町千滝222-1

【施工概要】

- ①準備工 石橋清掃、壁石一つ一つへのナンバリング $A=55.8\text{ m}^2$
- ②土工 床掘、土砂運搬 $V=747.3\text{ m}^3$
- ③中詰め工 既存割石、購入割石 $V=142.8\text{ m}^3$
- ④壁石撤去復元工 既存壁石解体復元、壁石継足、壁石調整 $A=66\text{ m}^2$
- ⑤輪石補強工 ステンレスアンカーピンによる固定 $N=52\text{ 箇所}$
- ⑥擬石修復工 輪石、壁石、親柱補修箇所の擬石処理 $A=0.9\text{ m}^2$
- ⑦輪石基礎補強工 ステンレスアンカーピン補強 $L=10.5\text{ m}$
- ⑧取付石積工 練積、間知石積み $A=3.6\text{ m}^2$

- ⑨橋面防水工 防水コンクリート、防水シート $A=60.8\text{ m}^2$
- ⑩舗装工 橋面舗装、取付舗装 $A=260.6\text{ m}^2$
- ⑪親柱設置補修工 補修 $N=3$ 箇所、設置 $N=1$ 箇所
- ⑫石造高欄工 笠石設置、束柱設置、地覆石設置 $L=36.4\text{ m}$

5 工事期間

着工年月日 令和4年12月15日

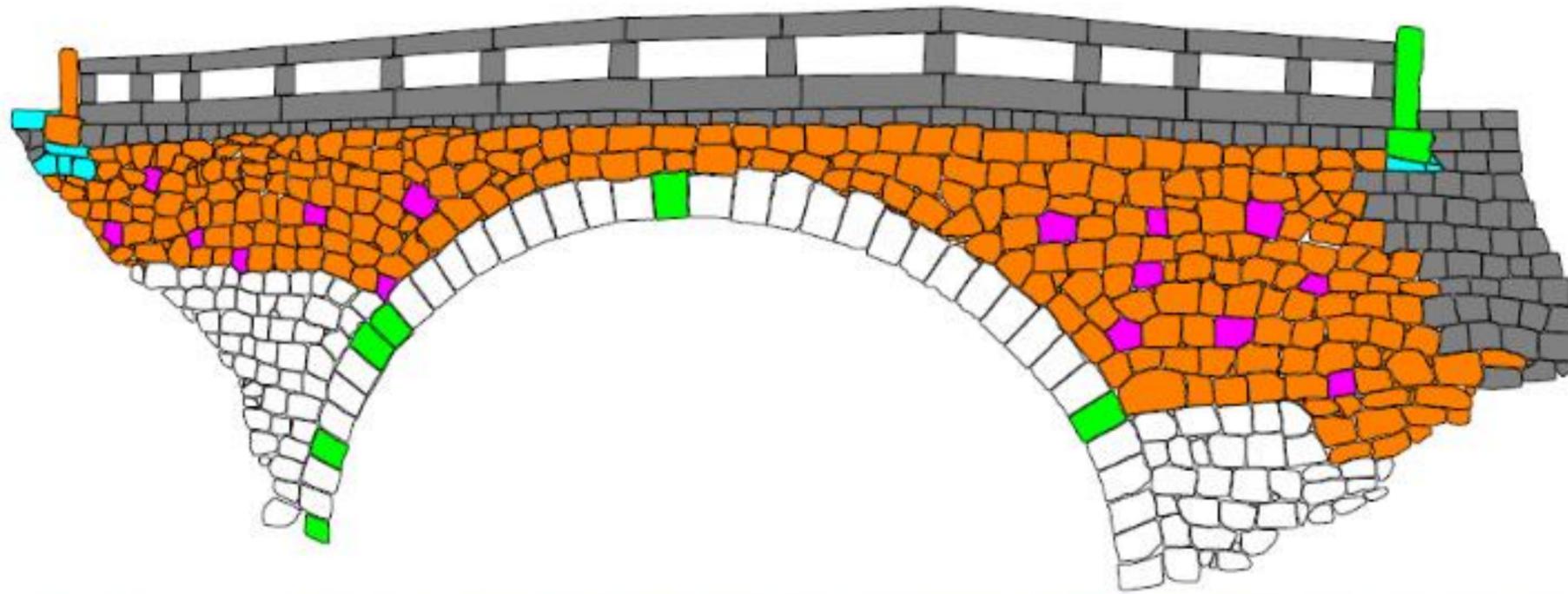
竣工年月日 令和6年7月16日

・完成写真



石材配置出来形図

上流側正面図



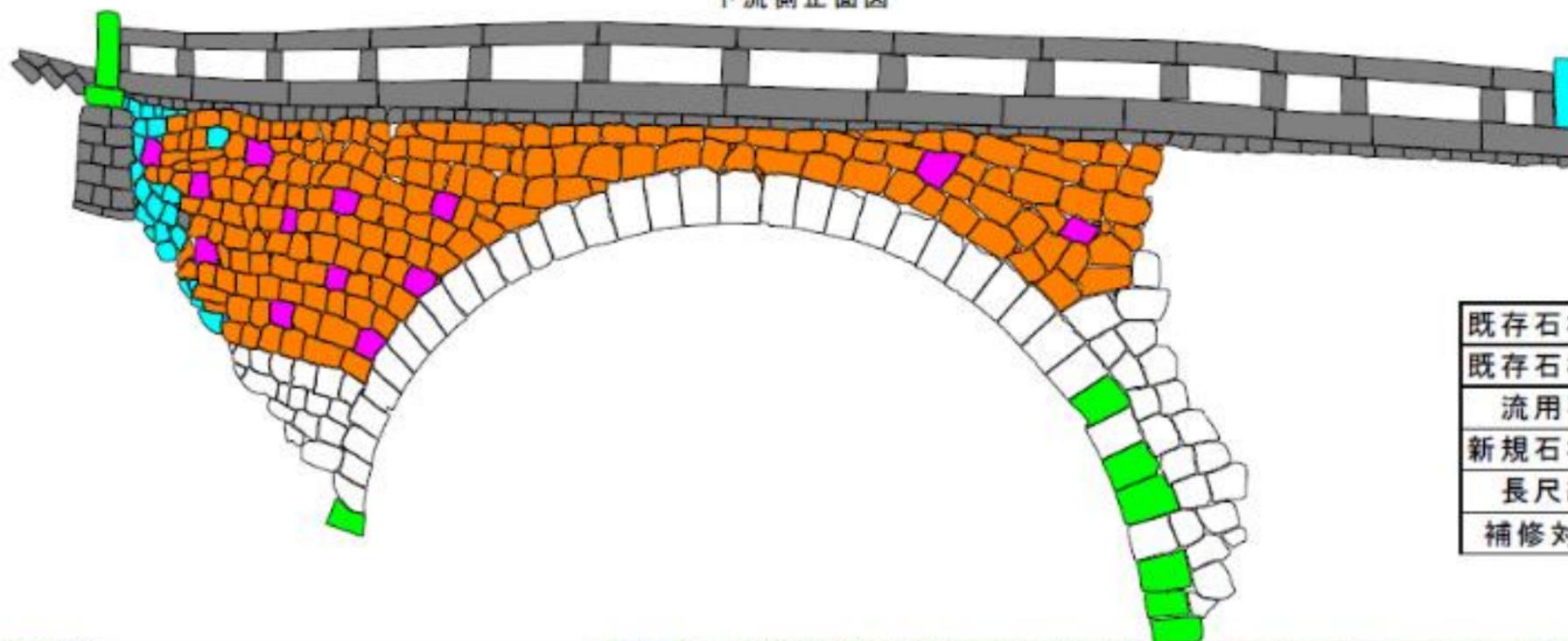
凡例

既存石材復旧	Orange
既存石材修復	Green
流用石材	Cyan
新規石材復旧	Grey
長尺締石	Magenta
補修対象外	White



石材配置出来形図

下流側正面図

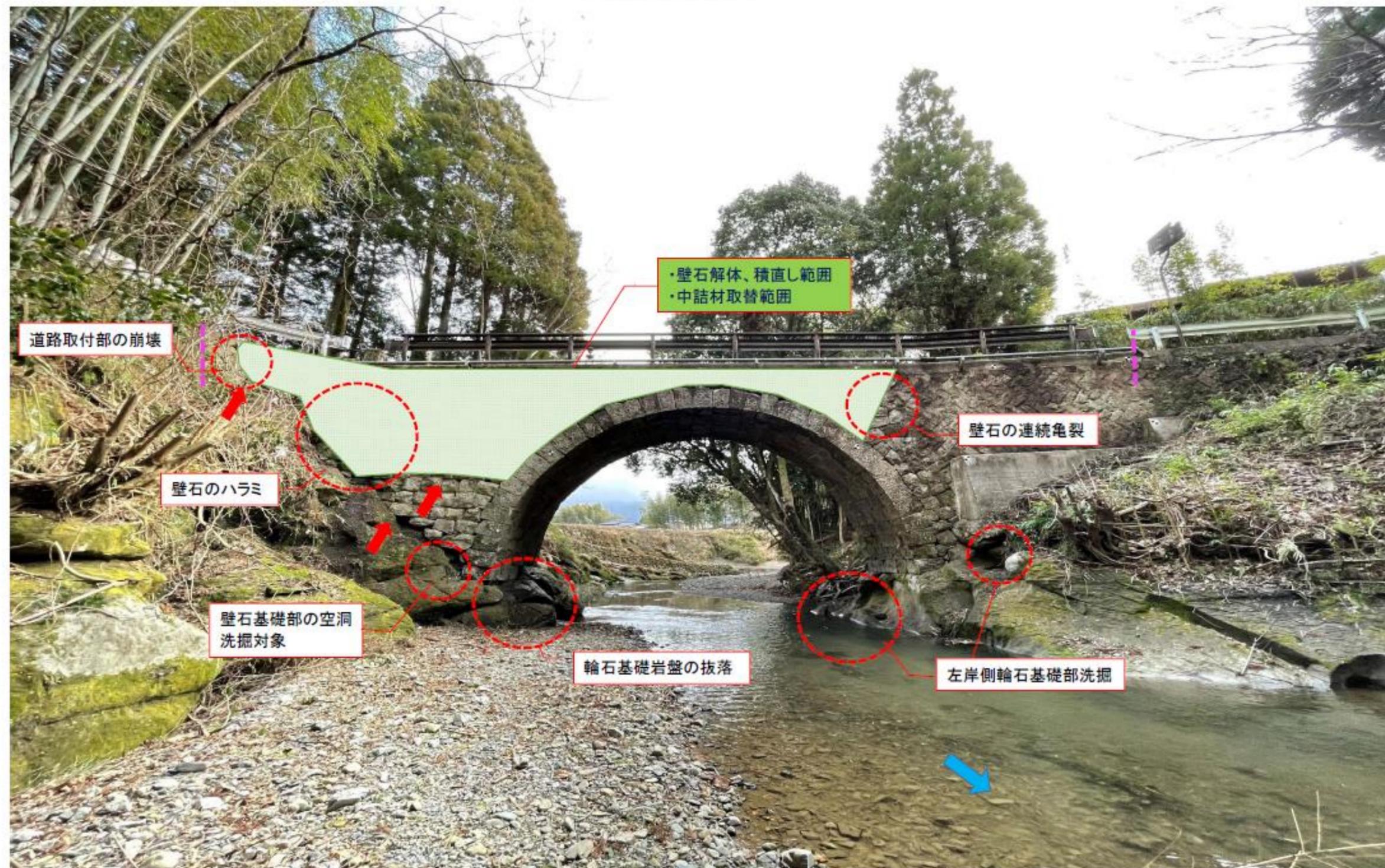


凡 例

既存石材復旧	Orange
既存石材修復	Green
流用石材	Cyan
新規石材復旧	Grey
長尺締石	Magenta
補修対象外	White



下町橋下流全景



工事状況写真

- 鋼製支保工設置状況



- 壁石ナンバリング状況



・下町橋（壁石）解体作業中



・下町橋損傷部（壁石）解体後



・壁石復元中



・【壁石取替前】



【壁石取替後】



・壁石及び中詰め（割石）復元完了後



【上流側：補修前】



【上流側：補修後】



【下流側：補修前】



【下流側：補修後】



【下染田側：上部工 補修前】



【下染田側：上部工 補修後】





湯 前 町